

## 社長メッセージ

NRS株式会社  
代表取締役社長  
戸木 眞吾



我々の生活がより豊かに・より便利に・より機能的に発展するに欠かせない化学品、NRSが持つ物流機能はグローバルにおいて化学品の重要なサプライチェーンの一角を支えています。

「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」の企業理念に基づき、「総合力で化学品物流をリードする」の経営ビジョンをあげ、「地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS」の存在意義を高めるために、絶え間なく進化し、より高付加価値なサービスを追求して企業価値を高めてまいります。安全と遵法を基本に据えて、顧客・それにかかわるすべてのステークホルダーから信頼され社会の持続的成長を支える事業を繋いでいきます。



## 企業理念

### 「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」

物流は「製造」と「消費」をつなぐきわめて重要な役割を持ち、産業の基幹をなしています。化学製品は自動車、家電、IT、医療、食品、エネルギー等、人類社会の豊かな生活に不可欠なものですが、一方でその原料の化学品は、「燃える」「爆発する」「毒性が強い」など非常に危険な性質を持っています。この化学品の物流にもっとも重要なもの、それは「安全」、そして「法の遵守」です。安全と法令順守、このことを基本に据えて、高品質・高効率な物流サービスを提供することが化学品の総合物流事業者であるNRSグループの使命であります。NRSグループの従業員は日ごろから自己研鑽に務め、自立的、自発的な行動のもと、顧客の要求に的確、且つ迅速にこたえられる高い品質と規模を備えた会社をつくりあげる。そのことによって顧客、取引先と社会に貢献し、広く支持されることを目指したいと思えます。

従業員が誇りをもって仕事をする。そして物心両面で幸せを感じられる会社。まさしく「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という創業の理念に到達できると信じるものです。

## 株式会社日陸からNRS株式会社へ

### 2022年10月 社名変更とブランド統一を行いました

2022年10月1日付で株式会社日陸からNRS株式会社に社名を変更しました。また、よりグローバルに一体感を強化するためにグループ会社の社名も改め、NRSブランドに統一しました。

当グループは化学品物流分野で輸送事業のほか、タンクヤード、倉庫事業、ISOコンテナやIBCの容器のリース・販売、海上・国際輸送のフォワーディング事業などをグローバルに展開していますが、グループ企業間では、社名、ブランド名が分散しておりました。そのため、当社は主力ブランドとして浸透しているNRSを新社名とするとともに、海外を含めたブランドを統一し、化学品物流におけるグローバルでのポジションをより高めていきます。



# NRSグループのビジョン

私たちNRS株式会社は、「小さくともダイヤモンドの如く みんなの幸せを」という企業理念のもと、ビジョン・ミッション・バリューを新たに策定いたしました。ビジョンは企業理念に基づいた経営目標、ミッションは存在意義、バリューはビジョン・ミッションを達成するための具体的な行動基準と位置付け、企業理念と企業倫理綱領を繋ぐ指針とします。これは、社名変更を契機にグループの一体感を強化し、One NRSで世界を、地球を繋いでいくという強い意志表明でもあります。

NRSが取り扱う化学品は、世界の発展を支える重要な要素です。顧客の要望に応え安全な取り扱いを行うことはもちろんのこと、環境問題や社会課題にも取り組みます。

社会、顧客、取引先、社員、家族をはじめとしたステークホルダーへの責任を果たすことで、私たちにかかわるすべての人々の物心両面での幸福を追求してまいります。

## 企業理念

小さくともダイヤモンドの如く  
みんなの幸せを

## ビジョン

総合力で化学品物流をリードする

## ミッション

地球の化学品物流に最適解を  
ベストアンサーはNRS

## バリュー

安全と遵法を第一に  
革新と発展を社会に  
安心と信頼を顧客に  
学びと成長を自らに



|       |   |   |
|-------|---|---|
| 1940~ | <p><b>1946年 戦災タンク貨車の復旧による石油化学品の輸送販売を目的として「日本陸運産業株式会社」設立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日陸輸送株式会社、日陸倉庫株式会社設立</li> </ul> <p>京葉工業地帯の石油コンビナートに大規模な危険物倉庫を開設。タンクローリー輸送事業、関西地区のタンクヤードとともに化学品業界の発展に貢献</p>   |    |
| 1980~ | <p><b>安全で高効率なISOタンクコンテナの国内運用の道を開く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■高石ケミカル株式会社設立。通関事業開始。</li> <li>■タンクコンテナ事業開始、海上タンクコンテナ事業部門開設</li> </ul> <p>当時日本で国内運用が認められていなかった国際輸送用ISOタンクコンテナに注目。最大積載量24tに対応した車両を車両メーカーと共同で開発。消防関係規則の緩和を当時の政府に強く働きかけ、輸出入貨物限定で24t ISOタンクコンテナの国内通行許可を取得。さらに働きかけを続け、1999年には上記の最大積載量が30.48tへ緩和、2004年には「輸出入貨物限定」条件が撤廃され、効率的で省資源な物流に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日本での輸出入の増加に伴ってトレーラーの横転事故が全国で多発。車両メーカーに共同開発を持ちかけ「横転抑止装置付海上タンクコンテナ積載専用シャーシ」を開発し、翌年当社の全事業所に配備した。</li> <li>■米国・ニューヨークに現地法人NRS America Inc.設立 [現NRS LOGISTICS AMERICA INC.]</li> <li>■英国インターフロー（タンクコンテナシステム）社を買収し、NVO事業を開始 [現NRSオーシャンロジスティクスリミテッド]</li> <li>■IBCのレンタル・販売開始</li> <li>■シンガポールに現地法人NRS Singapore Pte. Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD.]</li> </ul>   | <p>輸送事業</p>  <p>倉庫事業</p>   |
| 2000~ | <p><b>中国交通部の要請で本格的な危険物倉庫を開設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■中国・上海に合併会社上海日陸外聯発物流有限公司設立</li> <li>■無機シアン化合物またはフッ化水素若しくはこれを含む製剤の運搬については、輸送数量が10kl以下に制限されていたが、当社が事務局を務める日本危険物コンテナ協会を通じて、長年にわたり熱心に関係省庁に働きかけたことにより、IMO基準にISOタンクコンテナであれば容量の制限なく運搬が可能となり、当社が最初に無水フッ化水素の国内輸送を手がけた。</li> <li>■中国・上海に保税危険物倉庫開設</li> </ul> <p>当時、中国の危険物倉庫は小屋のような建物に消火器がある程度のものであった。中国交通部が日本へ危険物物流の視察に来日した際に対応していた縁で、上海での危険物倉庫運営の要請があり、上海港に保税危険物倉庫を開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■航空貨物輸送事業部門開設</li> </ul> <p><b>2008年 社名を「株式会社日陸」に変更</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■医薬品、医薬部外品、化粧品、化粧品の製造業（包装・表示・保管）許可取得</li> <li>■IATA貨物代理店認可取得</li> <li>■IT点呼の考案</li> </ul> <p>乗務員の健康管理と安全確保の基盤となる点呼は、深夜、早朝に行われることが多く、運輸事業者の間では大きな経済的、人的負担となっていた。そこでITを活用したIT点呼を考案し、国土交通省で認可を得て、安全運行と業務改善の向上に繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■東京税関より認定通関業者（AEO制度*）認定を国内第1号として取得</li> <li>■環境ISO14001認証取得</li> </ul> | <p>タンクヤード事業</p>  <p>コンテナ事業</p>  <p>フォワーディング事業</p>  |
| 2010~ | <p><b>日本で培った安全品質物流のノウハウを展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■韓国・ソウルに現地法人NRS LOGISTICS KOREA CORPORATION設立 [現NRS LOGISTICS KOREA CO., LTD.]</li> <li>■タイ国・バンコクに現地法人NRS Logistics (Thailand) Co., Ltd.設立 [現NRS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.]</li> <li>■台湾・台北市に台湾支店開設</li> <li>■NRS Logistics Vietnam Co., Ltd.設立</li> <li>■東京税関より特定保税承認者（AEO制度*）の承認取得</li> <li>■ベトナムに現地法人NRS Raiza Logistics Vietnam, JSC.設立</li> </ul> <p>同国初 日本品質の危険物倉庫を開設へ</p>   | <p>IT点呼の様子</p>   |
| 2020~ | <p><b>2022年 社名を「NRS株式会社」に変更</b></p>   | <p>ベトナム初 日本品質の危険物倉庫</p>    |

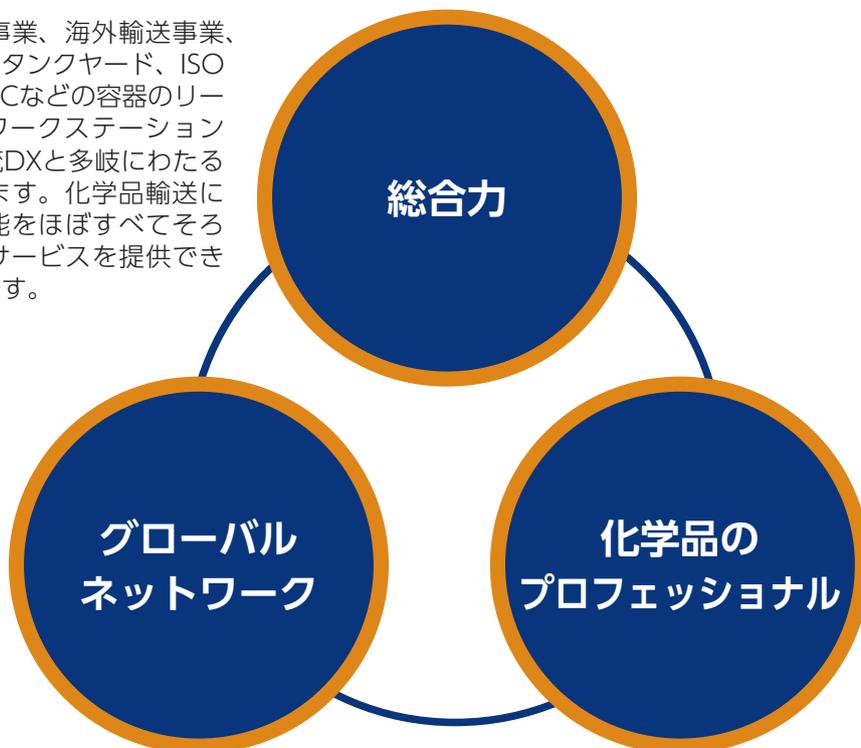
\*AEO制度：貨物のセキュリティ管理と法令遵守（コンプライアンス）の体制が整備された事業者に対し、税関が承認・認定し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



## NRSグループの強み

NRSグループがかかわる事業環境では、新型コロナウイルス感染の拡大、ウクライナ情勢を機に、サプライチェーンの重要性が高まっています。安全と法の遵守を基本に据えて、「総合力」、「グローバルネットワーク」、「化学品のプロフェッショナル」という当社グループの強みを今後も強化し、高付加価値なサービスを追求します。

化学品の国内輸送事業、海外輸送事業、倉庫事業をはじめ、タンクヤード、ISOタンクコンテナやIBCなどの容器のリース・販売、マルチワークステーションの運営、通関、物流DXと多岐にわたる事業を展開しています。化学品輸送に特化した様々な機能をほぼすべてそろえてワンストップサービスを提供できるのが当社の強みです。



イギリス、オランダ、フランス、ドイツ、アメリカ、中国、台湾、韓国、シンガポール、タイ、ベトナムにグループ会社を持ち、グローバルに顧客のニーズに応えます。One NRSをスローガンにグループの規模感、一体感をより強化していきます。

安全で高品質な物流は、危険物に関するプロフェッショナルだから実現できるものと自負しています。また、従来から注力してきた化学品の物流に関する知識などの教育のみならず、グローバルに通じるリーダーとなる人財を育てています。これまで以上に人財への投資を増やし、強化充実させ、常に社会課題に向き合いながら新しい価値を創り出す人財を育成しています。



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## 持続可能な社会創出（サステナビリティ）に対する考え方

NRSグループは化学品・危険物物流のリーディングカンパニーとして、地域や環境への負荷を軽減する事業活動を徹底しています。  
これまでもそしてこれからも、SDGs/ESGに配慮した企業活動で持続可能な社会の創出に貢献します。当社グループが目指すSDGs/ESGへの取り組みは下記の通りです。

### NRSグループのSDGs/ESGへの取り組みが指すもの



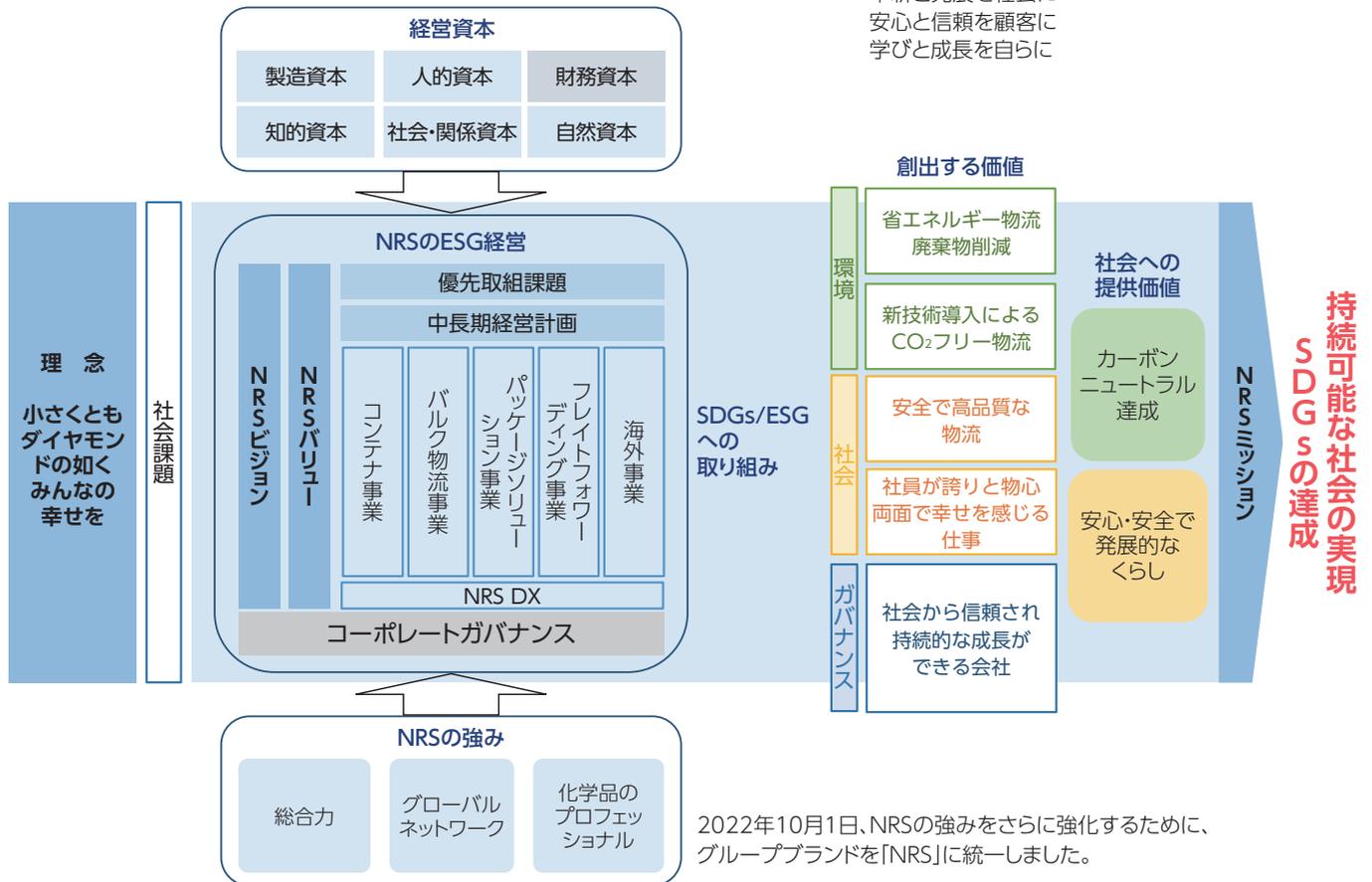
# NRSグループの目指すサステナビリティ

## NRSグループのサステナビリティロードマップ

人類社会の発展や高度化に不可欠である化学品のサプライチェーンにおいて、物流業が産業の基幹を担うことに誇りを持ち、「NRSバリュー」を社員1人ひとりが高め、安全で高品質な物流サービスを提供することで社会課題を解決し、持続可能な社会の創出に貢献します。

- NRSグループビジョン** 総合力で化学品物流をリードする
- NRSグループミッション** 地球の化学品物流に最適解を ベストアンサーはNRS
- NRSグループバリュー** 安全と遵法を第一に

革新と発展を社会に  
安心と信頼を顧客に  
学びと成長を自らに



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



\*SDGsとは、2030年までに社会が抱える問題を解決するための世界共通目標として、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標」です。17のゴールと169のターゲットで構成されています。



# NRSグループの目指すサステナビリティ

## SDGs達成（2030年）に向けたNRSグループの重要課題（マテリアリティ）



### CO<sub>2</sub>排出の削減

変動要因はGHG（主にCO<sub>2</sub>）であり、その主要発生源は化石燃料と電力です。燃料については脱化石系への切り替えを使命とし、水素・EV・バイオマス等への代替を進めます。電力については太陽光発電の取り込みや電力購入先の再生可能系への転換を計画的に進めます。また、省エネルギー・省資源化への取り組みは日常作業として定着に努めます。

### コンプライアンスの徹底

関係法令の遵守はもとより、社内規程や作業マニュアルに至るすべてのルールの遵守を徹底しています。コンプライアンス委員会を通じて法令の遵守状況を確認し、管理監督および必要に応じた是正を進めています。

### 多様性の尊重と働きやすい職場づくり

少子高齢化の中で優秀な人財を確保・育成し、成長し続ける企業であるために、外国籍人財の積極的な採用や定年制度の延長など多様性の尊重（ダイバーシティ）を推進しています。また、組織の活力である社員が十分に能力を発揮できるように、ワークライフバランスを重視した制度の拡充や、多彩な教育研修の計画と実施を進め、安全で働きがいのある職場づくり（ディセントワーク）に取り組んでいます。

### 安全で高品質な物流の提供

化学品は社会の発展に大きく寄与します。しかし、大気・水質・土壌等環境への悪影響や大規模災害に繋がるリスクの考慮が欠かせず、取り扱いには専門的な知識・技能や経験が必要となります。NRSグループでは、化学品物流のプロフェッショナルとして安全で高品質な物流を提供するために積極的な人財育成、物流荷役設備の整備・予防保全、DXのさらなる推進に取り組んでいます。



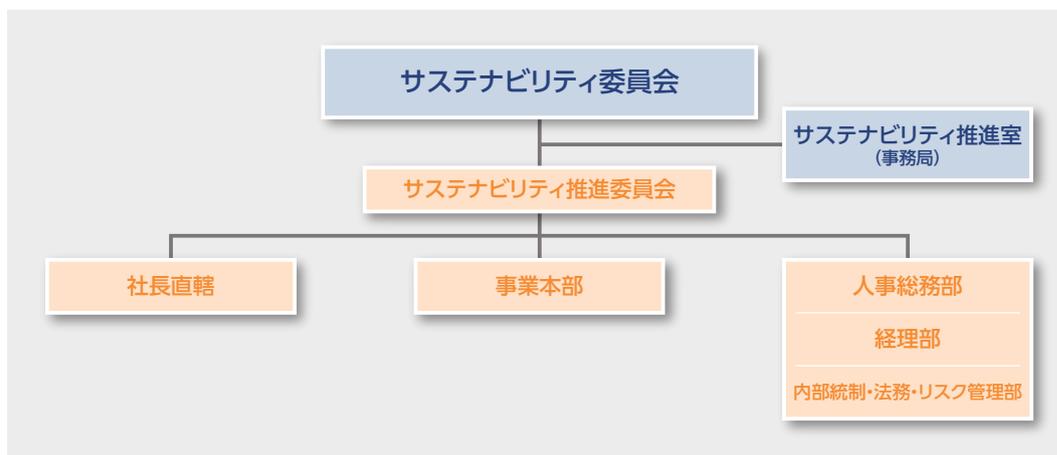
# NRSグループの目指すサステナビリティ

## サステナビリティ推進活動

当社では2021年1月、SDGs委員会をはじめとしたSDGs推進体制を発足し活動していましたが、サステナビリティの視点を踏まえた経営をさらに強化・促進するため、2022年11月、サステナビリティ委員会へ名称を変更いたしました。サステナビリティ委員会は社長を委員長とし、取締役メンバーで構成、サステナビリティ推進に関する方針の策定等を行います。推進委員会では会社方針を具体化するため、社内各拠点を中心に広くはステークホルダーへ活動方針や実行計画等を共有・公開する使命を有します。

ここまでの活動成果は、先に記載の取り組みの策定、ホームページの改訂（サステナビリティページへの改訂）、社外評価（EcoVadis評価）への対応があげられます。社内向けには活動情報共有を目的とするニュースレターの定期発行をはじめ各種伝達媒体による情報発信を行っています。また、2046年のカーボンニュートラル化を宣言、その行動計画策定へも対応しています。

### サステナビリティ委員会組織図



## 国際的なサステナビリティ格付機関からの評価

NRSグループは2021年10月、フランスのEcoVadis社が実施したサステナビリティ調査において「ブロンズ」の評価を獲得しました。EcoVadisは、数千にのぼる外部ソース（NGO、労働組合、国際機関、地方自治体、監査機関など）をもとに、独自のCSRに関する評価基準によって、世界各地で90,000を超える企業・団体のサステナビリティへの取り組み状況の評価する、独立した信頼性の高い共同プラットフォームです。NRSグループでは、社員1人ひとりがSDGs/ESGを意識しながら、サステナビリティ推進の取り組みを一層強化していきます。



### 参画するイニシアティブ

- JH2A 水素バリューチェーン推進協議会
- クリーン燃料アンモニア協会
- 日本危険物コンテナ協会
- 「ホワイト物流」自主行動宣言

